



福音を生きる

暗唱
聖句

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである」(エペソ 2:8～10、口語訳)

今週の
聖句

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」(エフェソ 2:8～10、新共同訳)

ローマ 8:20～23、ヨハネ 3:16、17、マタイ 9:36、
エフェソ 2:8～10、Iヨハネ 3:16、17、黙示録 14:6、7

安息日
午後
8/31

今週のテーマ

私たちは、神の掟、要求、命令について語るとき、私たちの行いで救いが得られるとか、行いが救いに貢献するとか、神の好意を得ることに貢献すると考える危険や誘惑に直面します。しかし聖書は、私たちは罪人であり、イエスによる神の恵みと、十字架でのイエスの身代わりの死によって救われる、と繰り返し述べています。私たちは、多少なりとも何かを加えることができるでしょうか。あるいは、エレン・ホワイトが記したように、「たとえ人間の内の良いもの、神聖なるもの、高潔なもの、愛すべきもののすべてをかき集めたとしても、それらを人間の救い、またそのための功績の役割を果たすものとして神の御使いに紹介したなら、その主張は不信として拒まれてしまうでしょう」(『信仰と行い』24ページ)。

それゆえ、困窮している人々への私たちの憐れみや同情の業が、律法主義とみなされないように。それどころか、救いに関する理解と感謝において私たちが成長するにつれて、神の愛と、貧しく虐げられている人々に対する神の気遣いとの結びつきは、神の愛の受け手である私たちに受け継がれます。私たちは受けたのだから、与えるのです。私たちは、神が私たちがいかに愛してくださったのかを理解するとき、神がどれほどほかの人たちをも愛し、また彼らを愛するように私たちに召しておられるのかもわかるのです。

ヨハネ 3:16 には、「神は……世を愛された」と記されています。「世」に相当する原語のギリシア語は「コスモス」で、「創造され、組織立った存在としての世界」（『SDA聖書註解』第5巻929ページ、英文）を意味します。この聖句は人類の救済に関するものですが、救済計画は被造物全体にも関係しています。

問1 ローマ 8:20～23 を読んでください。救済計画における広範囲の問題について、どのようなことを教えてください。

言うまでもなく、あるレベルにおいて、救いは、主との個人的つながりにおいて私たち個々に関するものです。しかし、それだけではないのです。義認の意味は、実のところ、私たちの罪が赦されることだけではありません。理想的には、義認は、イエスと聖霊の力によって、主がいかに神の家族を創造されるかを示すものであるべきなのです。その神の家族は、何よりも善行を通してこの世界に証しする者となることで、自分たちの赦しと救いの確かさをほめたたえます。

問2 ヨハネ 3:16、17 を読んでください。16 節を幅広く理解するために、17 節は役立っていますか。

私たちは、神が私たち以外の人々を愛しておられることを受け入れることができます。神は、私たちが愛する人たちを愛しておられ、私たちはそれを喜びます。神は、私たちが手を差し伸べる人たちをも愛しておられ、この真理を認識することが、しばしば彼らに手を差し伸べる私たちの動機なのです。しかし神はまた、私たちが不快に感じる人たち、恐ろしいと思う人たちさえも愛しておられます。神は、あらゆる場所のあらゆる人を、私たちが特に好きでないかもしれない人たちさえも愛しておられるのです。

森羅万象は、そのことが実証されているのを私たちが知る一つの方法です。聖書は、神の善良さの証拠として私たちの周囲の世界を一貫して挙げています——「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」（マタ 5:45）。命そのものでさえ神からの賜物であり、神に対する個人の応答や態度にかかわらず、すべての人はその賜物の受け手なのです。

◆ ほかに人たちが神によって造られ、愛されていることを私たちが認識するとき、彼らや彼らの状況に対する私たちの態度は、どのように変わりますか。

救済と大争闘の入り混じったさまざまな物語を学ぶと、この世と私たち自身を理解する上で必要となる真実を見いだすことができます。その真実とは、私たちこの世が墮落し、破綻^{はたん}し、罪深いということです。私たちの世界は、創造されたときは別物であり、私たちは、創造主のかたちをとどめてはいるものの、この世の欠陥の一部です。私たちの生活の中の罪は、世界中で多くの痛み、抑圧、搾取の原因となっている悪と同じ性質を持っています。

それゆえ、私たちがこの世と周囲の人たちの痛み、不快、悲しみ、悲惨さを感じるのは当然のことです。この世における人生の苦悩を感じないためには、ロボットになるしかないでしょう。詩編の中の嘆き、エレミヤをはじめとする預言者たちの悲しみ、イエスの涙と同情は、この世とその悪、またとりわけその悪によってしばしば傷つけられている人たちに対するこういった反応が妥当であることを明らかに示しています。

問3 マタイ9:36、14:14、ルカ19:41、42、ヨハネ11:35を讀んでください。それぞれの聖句の中で、イエスの心を同情の気持ちで動かしたのは何でしたか。私たちは周囲の痛み^に同情できる心を、どのように持つことができますか。

私たちはまた、罪や悪が単に「あそこ」にあるものではないこと、あるいはだれかの欠陥の結果などではないことを覚える必要もあります——「自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません」(Iヨハ1:8)。聖書の預言者たちの理解によれば、罪が悲劇であるのは、おもにだれかが「規則」を犯したからではなく、罪が神と神の民の関係を破壊したからであり、また私たちの罪がほかの人を傷つけるからなのです。これは小さな規模でも大きな規模でも起こりえますが、それは同じ悪です。

利己心、貪欲、意地悪、偏見、無知、不注意は、この世のあらゆる悪、不正、貧困、抑圧の原因です。そして、私たちの罪深さを告白することが、このような悪に対処するうえでの第一歩であるとともに、神の愛が私たちの心の中でふさわしい場所を占めるための第一歩なのです——「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」(Iヨハ1:9)。

◆ あなた自身を(鏡に近すぎず、長時間でなく)見つめてください。あなたはいかに破綻していますか。あなたはいかに大きな問題の一部になっていますか。唯一の答えは何ですか。目を向けるべき唯一の所はどこですか。

問4 あなた自身の言葉で、エフェソ2:8～10を要約してください。恵みと善行の関係について、これらの聖句は何を教えてくださいか。

聖書は、私たちが創造されたのは、何よりも神を礼拝し、他者に仕えるためであったと語っています。罪のない環境において、そういう行為がどのようなものであったのか、私たちは想像でしか理解することができません。

現時点で私たちが知っているのは、罪のゆえに破綻^{はたん}し、墮落した世界だけです。しかし私たちにとって幸いなことに、神の恵みにより赦しといやしへの道が開かれています。その恵みは、この世の罪に対するイエスという犠牲によってあらわされ、実行されました。それゆえ、このように破綻した存在でありながらも、私たちの人生はより完全な神の作品となります。また、神は私たちをパートナーとして用いて、人々の人生におけるダメージや傷をいやして下さいます（エフェ2:10参照）。「受ける者は他に与えなければならない。すべての方面から助けを求められている。神は人間が、喜んで他の人々に奉仕するように要求しておられる」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』85ページ）。

改めて述べますが、私たちが善行を行う（貧しい人を気遣い、虐げられた人を高く上げ、空腹な人に食べ物を与える）のは、救いや神の信用を得るためではありません。私たちはみな、キリストに対する信仰によって、私たちが必要とする神の信用を得ています。むしろ私たちは、自分自身が罪人であるとともに罪の犠牲者であり、それにもかかわらず、神によって愛され、贖われていることを認めます。依然として、私たちは自己中心や貪欲の誘惑と戦いますが、神の献身的で謙虚な犠牲は、私たちの人生を変える新しい種類の命と愛をもたらすのです。

キリストの十字架に目を注ぐとき、私たちは、私たちのためにささげられた大いなる犠牲、完全な犠牲を見、それがキリストによって提供するものに何も加えられないことを自覚します。しかしこれは、キリストによって与えられたものへの応答として私たちが何もすべきではない、という意味ではありません。それどころか、**私たちは応答しなければなりません**。そして、愛を他者に示すこと以上に、私たちに示されたその愛に応えるより良い方法があるでしょうか。

問5 Iヨハネ3:16、17を読んでください。十字架に対する私たちの応答がどうあるべきかを、これらの聖句はいかに力強く捉えていますか。

イエスは奉仕と教えによって、徹底的な包容性〔徹底的にだれでも受け入れること〕を奨励なさいました。彼は、正直な動機から彼の注目を得ようとしたあらゆる人を（評判の悪い女、徴税人、重い皮膚病を患う人、サマリア人、ローマの百人隊長、宗教指導者、あるいは子どもたちであれ）純粋な温かさや配慮をもって歓迎されました。初代教会は革新的な方法で気づくことになりましたが、これには救いの賜物の提供が含まれていました。

初期の信者たちが福音の包容性を徐々に理解したとき、彼らは他者に対する善行を、なすべき「良い」ことの一つとして単に自分たちの信仰に付け加えていたわけではありません。それは彼らの福音理解の中核でした。なぜなら、彼らはそれをイエスの人生、奉仕、死において体験していたからです。彼らは、生じた問題や疑問と格闘したとき（当初は、パウロやペトロといった指導者たち個人のために、〔例えば、使徒 10：9～20 参照〕、やがてエルサレム会議において教会全体として〔同 15 章〕）、この福音が神の愛や包容性に対する彼らの理解を、また神に従うと告白する人たちの生活の中でいかにそれが実行されるべきかということへの理解を劇的に転換していたのだ、と気づき始めました。

問 6 次の聖句は、私たちに共通する人間性についてどのようなことを教えていますか。それぞれの考えから、他者に対する私たちの態度は、どのような影響を受けますか。マタイ 2：10、使徒言行録 17：26、ローマ 3：23、ガラテヤ 3：28

ガラテヤ 3：28 は、イエスが善いサマリア人について語られた実際的な物語を神学的に要約したものです——私たちがだれに奉仕する義務を負っているのかを論じるのではなく、むしろただ行って奉仕しなさい、また、たぶん私たちに奉仕するとは思えない人たちから奉仕される心備えをしておきなさい。全世界の人類家族に共通する要素は、福音によって、つまり、神にある一致へと私たちに召している神の救いの愛によって結ばれた人たちから成る共通の家族の中において、より高いレベルで実現します——「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をバプテスマのませてもらったのです」（I コリ 12：13）。

「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」(黙14:6)への永遠の福音という革新的な招きと訴えは、キリスト教史全体を通じてずっと続いてきました。しかし黙示録は、時の終わりにおけるこのようなメッセージ(イエスに関する良い知らせとそれに伴うあらゆること)の新たな宣布を描いています。

問7 黙示録14:6、7を読んでください。通常、ヨハネ3:16に要約される福音の共通理解は、7節の天使のメッセージの中にどのように含まれていますか。

私たちは今期の研究の中で、聖書物語全体を通じて神が悪や貧困や抑圧を懸念しておられることにすでに注目しましたが、黙示録14:7はこれら三つの重要な要素を一つにまとめています。

「裁き」——裁き(行われるべき正義)を求める訴えは、歴史を通じて虐げられてきた人たちの再三の要求です。幸いなことに、聖書は苦しんでいる人たちの叫びを聞いてくださるお方として神を描いています。例えば、詩編の中でしばしば表現されているように、不公正に扱われている人たちは、裁きを良い知らせとみなします。

「礼拝」——ヘブライの預言者たちが書いたものは、礼拝という主題と善行という主題をしばしば結びつけています。とりわけ、神の民であると主張した人たちの礼拝と、彼らが犯し続けた悪事とを比較するときにそうしています。例えばイザヤ58章において神は、最も望むべき礼拝は親切な行為と、貧しく乏しい人々への配慮である、とはっきり述べておられます(イザ58:6、7参照)。

「創造」——すでに触れたように、神が正義を要求されることの基礎的要素の一つは、人類という共通の家族です。つまり、私たちはみな神のかたちに造られ、神に愛されているということ、私たちはみな神の目に価値があるということ、他者の不正な利益や貪欲のために搾取されたり、虐げられたりすべきではないということです。終末時代のこの福音の宣布が、墮落した人類に神が望んでおられる救い、贖い、回復を受け入れるようにとの広範囲にわたる召しであることは、明らかなようです。それゆえ、真の礼拝と偽りの礼拝に関する問題や、迫害の中であるにもかかわらず(黙14:8～12参照)、神は、最悪の悪の中でも正しいことを支持する人々、神の掟とイエスに対する信仰を守る人々をお持ちになるでしょう。

◆ 私たちは、三天使の使命の中にある希望と警告を伝える一方で、同時に、困窮している人々を助ける方法を、どうしたら見いだすことができますか。

参考資料として、『各時代の希望』第1章「神われらと共にいます」、『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』第6章「奉仕のために救われる」を読んでください。

「神は、全地がご自分のぶどう園であると主張なさる。たとえ今は横領者サタンの手の中にあるとはいっても、これは神の所有である。創造によると同時に贖罪によっても、これは神のものである。キリストの犠牲は世界のためになしとげられた。『神はそのひとり子を賜わたったほどに、この世を愛して下さった』(ヨハネ3:16)。この賜物が1つ与えられたことによって、ほかのすべての賜物が人々に与えられるのである。全世界は、日毎に神の祝福を受けている。恩を忘れた人類にそそがれるひとしずくの雨、ひとすじの日光、また1枚の葉、1つの花、1つの実など、その1つ1つは神の寛容とその偉大なる愛を証している」(『希望への光』1303、1304 ページ、『キリストの実物教訓』280、281 ページ)。

「キリストにあっては、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もない。すべての者は、キリストの尊い血によって近い者となったのである(ガラテヤ3:28、エペソ2:13)。いかに宗教的信仰の相違があろうと、人類の苦しみの叫びに耳を傾けて、それに答えなければならない。……

わたしたちの周りには、試練にあって、同情の言葉と援助の手を要する気の毒な魂がいる。同情と助けの必要なやもめたちもいる。また、キリストが、神から託された者として受けるように、弟子たちにお命じになった親のいない子もいる。このような人々は、とかく見過ごしにされがちである。彼らは、みすぼらしく、粗野で、見たところ少しも好ましくない人々のようであるかもしれないが、彼らも神の所有なのである。彼らも価をもって買われたのであって、神の目の前には、わたしたちと同じように価値のあるものである。彼らは、神の大家族の一員であるから、クリスチャンは管理者として、彼らの責任を負っているのである」(同上 1339 ページ、同上 363、364 ページ)。

まとめ

救済計画にあらわされ、イエスの人生と犠牲によって実行された神の愛は、赦し、命、希望を私たちに提供します。私たちはこの恵みの受け取り手として、それを他者と分かち合おうと努めますが、そうするのは、救いを得るためではなく、それが、私たちが創造され、再創造された理由だからです。従って、福音は関係を変え、(とりわけ困窮している人たちに) 奉仕するよう私たちを促します。